

## 沖縄の米軍と性暴力

日時 2021年11月26日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 仲間 恵子（委嘱研究員）

1972年5月15日、沖縄の施政権が米国から日本に返還されました。27年間、米軍の統治下に置かれた沖縄が日本に復帰して今年で49年になります。今も沖縄県には在日米軍専用施設の約70%が集中しています。米軍関係者による性暴力は1945年3月、沖縄戦で米軍が上陸した直後から始まりました。米軍が駐留し続けるなかで、近年においても2016年4月に米軍属女性暴行殺人事件、2019年4月には北谷町のアパートで米海兵隊所属の海軍兵が女性を殺害後に自殺する事件が発生するなど、凶悪事件は後を絶ちません。

2013年5月13日、橋下徹大阪市長（当時）は登庁時のぶらさがり取材で、旧日本軍の「慰安婦制度は必要だった」と発言、さらに米軍普天間飛行場視察の際に在沖米軍幹部に対して「兵士の性をどうコントロールするかはいつの時代にあっても軍のオペレーションの最重要課題。だから沖縄の司令官に法律上認められている風俗業の活用をしてはどうかと言った」と明らかにしました。後に米軍に風俗業の活用を勧める発言については「国際感覚が足りなかった」などと釈明しましたが、沖縄の人々から「人権感覚の欠如」、「女性のみならず男性、すべての人間の尊厳を傷つけるもの」など批判と怒りの声があがりました。

沖縄での米兵による性暴力はどのようににはじまったのか。なぜ、軍隊は性暴力と結びつきやすいのか。戦争のための訓練を日々行う軍隊のいる島・沖縄の戦後の歩みとともに考えます。

\* \* \*

●聴講無料  
(定員80名/先着順)  
<事前申込制>

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前に受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

※受講申込にあたっては、以下の〔新型コロナウイルス感染予防対策〕にご留意のうえ、ご理解とご協力をお願いいたします。

〔新型コロナウイルス感染予防対策〕

- 受講者はマスクを必ず着用してください（マスク着用でない場合、受講はご遠慮ください）。
- 受講者は受付で手指消毒用のアルコールにて消毒してください（会場内は事前に消毒を行っています）。
- 座席は間隔を空けて設定いたします。また演台に近い座席は使用しません。
- 換気のため、会場の出入口のドアは講演中も開放いたします。
- 三密対策として、会場内やロビーでの談笑はご遠慮ください。
- 当日、体調不良の方、特に喉の痛み、咳、および熱のある方（体温が37.5℃以上の方）の受講はご遠慮ください。当日は入場時に検温を行います。
- 参加者に感染者が発生した場合は必要に応じて、保健所など公的機関へ氏名および連絡先の情報が提供されることがあります。
- 接触確認アプリCOCOAのインストールを推奨します。
- 感染拡大の際は、講座の開催を中止する場合があります（その場合、受講申込者に連絡いたします）。

手話通訳が必要な場合は、11月2日（火）までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>